

トヨタ 車種の系譜・・・その車は、どの流れの何代目か

横＝年代（図解①と同じ目盛り）／縦＝7つの系統。左から右へ、名前が受け継がれてきた道すじを追えます。

図解①と並べて見ると、会社に何かあった直後にどの車が生
まれたかが縦に読めます。年は国内発売年の代表値です。

	1930s 創業	1940s 戦中戦後	1950s 再建	1960s 大衆化	1970s 規制	1980s 海外へ	1990s 環境	2000s 世界一	2010s 再構築	2020s 電動化
高級・セダン 会社の顔になる1台	1936 AA型 最初の量産乗用車		1955 クラウン 初代 純国産設計	1967 センチュリー 最上級の別格 1968 マークII		1989 セルシオ／レクサス LS 高級ブランドの旗艦		2005 レクサス 日本展開		2022 クラウン 16代目 4つの形に分かれる
大衆・コンパクト いちばん台数が出る流れ			1957 コロナ	1966 カローラ 初代 マイカー元年			1999 ヴィッツ 小型車の作り直し		2011 アクア 小さなハイブリッド	2020 ヤリス ヴィッツから改名
SUV・四駆 いま一番売れている形			1951 ジープBJ型 1954 ランドクルーザーに改名			1984 ランクル70系 働く四駆の定番	1994 RAV4 乗用車の足まわりでSUVに 1997 ハリアー		2019 ライズ 小型SUVの入口	2021 ランクル300系 2024 ランクル250
ミニバン・ワゴン 家族と荷物を運ぶ				1967 ハイエース 商用から家族用途へも			1990 エスティマ 卵形のミニバン	2001 ノア／ヴォクシー 2002 アルファード 2003 シエンタ		2020s アルファード／ヴェル ファイア 下取りが特に強い ⌚
スポーツ 売れ筋ではないが看板になる				1967 2000GT 名車として語り継がれる	1970 セリカ 1978 セリカXX のちのスープラ	1984 MR2 1986 スープラ 独立	1990s スポーツ車の縮小 規制と不況で数が減る		2012 86 手が届くスポーツの復活 2019 スープラ 復活	2020 GRヤリス GRブランドとして展開 ⌚
電動化 燃料代と税金に効く流れ							1997 プリウス 初代 世界初の量産ハイブリッド	2000s ハイブリッドが各車へ 特別なものから標準へ	2014 MIRAI 燃料電池車	2022 bZ4X 専用設計の電気自動車 ⌚
商用・トラック 会社を支えてきた土台	1935 G1型トラック 最初の量産車	1940s トラック中心の生産	1954 トヨエース 小型トラックの定番 1959 ダイナ	1968 ハイラックス 世界の働く現場へ						2020s 商用の電動化 配送車から順に ⌚

🏆 いちばん太い流れ

大衆・コンパクト。コロナからカローラ、ヴィッツ、ヤリスへと名前を変えながら、いちばん多くの人の生活を運んできました。中古で探すとき、台数が多く選びやすいのもこの流れです。

💡 中古車を見るとき使い方

気になる車が「どの流れの何代目か」が分かると、ひとつ前の代を選ぶ手が見えてきます。世代が変わった直後は前の代の相場が下がるので、同じ予算で状態のいい車に届くことがあります。

⚠️ 名前が変わっても中身は続く

ヴィッツとヤリスのように、名前が変わっただけで流れは続いていることがあります。逆に、同じ名前でも中身が別物になった例（クラウン16代目）もあります。名前ではなく代で見てください。